

“21世紀の申し子”100年時代の人生、豊かな出会いで「自己発見」と「自己発現」を！ —卒業式は、新しい人生のCommencement、つまり始まり—

本誌編集長 佐藤 公 (さとう たかし)

(2024年陽春号)

「先達に学ぶ」人生いつの時点においても、背中を押されるアドバイスや心に残る金言との出会いは貴重である。さらに人格者の先達(師)との豊かな出会いが人生の早期であれば、この上なく豊かな人生を歩むことになるだろう。

今年も3月、全国の大学では新社会人となる若人への儀式、卒業式が行なわれたが、そこで発信された大学トップの式辞は若人のみならず、多くの社会人にとっても再認識し気づきをもたらす貴重な道標である。

京都大学の湊 長博(みなと・ながひろ)総長は、「コロナ禍で一年遅れの入学式における式辞の中で私は皆さんに、大学生活で最も大事なことのひとつは新しい『自己発見』であり、それはしばしば新たな

「まだ半分あるぞー」(「コップの理論」)——人生って己の『心』次第

な『出会い』によってもたらされるとお話ししました。皆さんには新しい友人や先輩、魅せられた書物、心に残る出来事など、さまざまな『出会い』があったことと思います。はたして新しい『自己発見』があったでしょうか」と前置きで学生に問いかけた。

そして「アメリカでは、大学の卒業式をしばしばCommencementと言います。アメリカのほとんどの大学は入学式を行わない代わりに、盛大な卒業式で祝福します。Commencementは本来、『始まり』や『開始』を意味する言葉ですが、大学の卒業式にこの言葉を充てるのは、それが『人生の開始』の儀式に他ならないという意味合いを含んでいることであると思われま

る。

さらに「ロンドン・ビジネススクールのアンドリュー・スコット教授とリンダ・グラットン教授は、その共著『ライフ・シフト——100年時代の人生戦略』(訳者：池村千秋、東洋経済新報社)のなかで、

最良の条件下においては、21世紀に生まれた日本人の50%は優に100歳を超えて生きることになるという統計予測を示しています。皆さんの多くはまさに21世紀の申し子であり、これから先、実に長い人生を歩んでいけることとなりますが、そこではこれまでの学生時代よりはるかに多くの、はるかに豊かな『出会い』に恵まれることになるはず

です。従って、大学生活の終わりが自己発見の旅の終わりであるというわけでは決してなく、皆さんの自己発見の旅はこれから半

世紀以上も続いていくこととなります」

「大事なのは、これからも新しい出会いを受け入れる間口をできるだけ広く開けておき、臆せずそれを受け入れていくことです。それらの経験から生まれる自己発見こそが、皆さんが潜在的に持っている可能性や能力を余すところなく引き出し、本当の『自己発現』に導いてくれることでしょう。21世紀の申し子である皆さんに与えられる『100年時代の人生』は、この自己発見と自己発現のプロセスを、あわてずじつくりと、時には何度でもやり直していくのに十分な時間を保障してくれています」

「これから先の皆さんの長い旅の道は、決して見晴らしのいい一本道とはかぎりません。むしろ、先の全く見えな

皆さんにも、新しい旅立ちに向けて、100年以上前に発表されたカナダの小説家ルーシー・モード・モンゴメリーが『赤毛のアン』の主人公アン・シャーリーに語らせた言葉を贈りたいと思います。

『Love banded roads. You never know what may be around the next bend in the roads.』私は曲がり角のある道が大好きだ。次の角を曲がったら、一体どんな景色なのか、どんな人と出会ういどんな出来事が待っているのか、わくわくする。(中略)

「これから皆さんの長い人生にも多くの『曲がり角』が出てくると思いますが、必ずしも近道や最短距離を歩く必要はありませんし、回り道や遠回りをすることを恐れる必要もないと思います。繰り返しますが、本日の卒業式は、新しい人生のCommencement、つまり始まりです。これから皆さんが進まれる道が、さらなる研究への道であれ実社会での新生活であれ、私は皆さんに、健全な批判的精神と他者への繊細な共感、そして自由で底抜けに明るい楽観主義を備えて自立した社会人として、力強く羽ばたいていけることを心から期待を

して、私からの祝辞に代えたいと思えます」と結ぶ。(京大HPより)

もう一例。早稲田大学芸術学校の古谷誠章(ふるや・のぶあき)校長の告辞から。

「『まだ半分あるぞー』吉阪隆正先生が早稲田大学紛争中の1969年7月に理工学部長として発した告辞です。グラスに半分の水を手に、『まだ半分残っているぞー』とニコニコする男と、『もう半分しかないぞー』と悲しがる男が描かれている。同じ状態でも見方によってポジティブにもネガティブにも捉えられる、ということを示していますが、吉阪先生はさらに、こんなことも言っています。『夜

中にベッドから布団が落ちて目が覚めたとき、布団をかけ直すか、落ちた布団に潜り込むか』さて皆さんはどうしますか？

人生って己の『心』次第だということ

を改めて教えていただきました。諦めた

ら、人生のゲームはそこで終わりということ

ことをコップ半分の水から学ぶことが

できるのです」とコップの水理論を引用した。(早大HPより)

この「コップの水理論」とは、P.F.ドラッカーの名言で、ビジネスで成功するための例えである。「コップに『半分入っている』と『半分空である』とは、量的には同じである。だが、意味はまったく違う。とるべき行動も違う。世の中の認識が『半分入っている』から『半分空である』に変わるとき、インベーションの機会が生まれる」(P.F.ドラッカー「インベーションと起業家精神」という。これは、コップに入った水を、『もう』と捉えるか『まだ』と捉えるか?の違いについて述べたもの。ドラッカーは、コップの中の水が『もう』から『まだ』に変わったときに、インベーションが生まれる」と言う。

以上、大学卒業式でのトップの告辞から①Commencementは「人生の開始」の儀式②ライフ・シフト100年時代の人生戦略③では大事なものは、これからも新しい出会いを受け入れる間口をできるだけ広く開けておき、臆せずそれを受け入れていくこと④「まだ半分あるぞー」(「コップの水理論」、P.F.ドラッカー)は、諦めたら、人生のゲームはそこで終わりという人生の教訓を学んだ。

最後に、社会で求められる人材とは、1に人柄、2に意欲、3に能力、そしてこれからのリーダーに最も必要なのは、『謙虚さ』と「謙虚さ」と思いやりであることを肝に銘じてほしい。